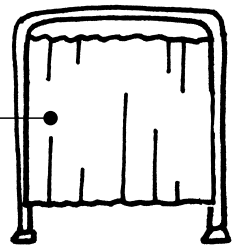


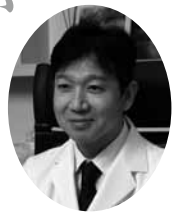
健康倶楽部



第5回

股関節痛のはなし

やさしい



狩谷哲

(かりや・さとの)
1994年金沢医科大学
卒業後、昭和大学整形
外科学教室入局。関連
施設勤務後、米国のア
ンダーソンクリニック
留学。関節置換術の権
威であるのもで人工関
節で博士号を取得。2010年石
部基実クリニック勤務、
11年副院長に就任。

Q

先天性の股関節脱臼です。治療方法を調べ、人工股関節置換術を受けたいと主治医に相談したところ、人工関節は再手術が必要で40代は難しいと言われました。再手術は必要ですか。

A

ご自身で自分の病气や治療のことを調べたことは、素晴らしい姿勢だと思えます。治療の第1歩は、ご自分の病気をよく知ることから始まります。治療法についても、医者任せにせず、ご自分で理解し、選択することは大切なことです。さて、質問の答えですが、再手術になる可能性は確かにあります。人工股関節は、大腿骨側(太もも)に入れるステムと骨盤側

に入れるカップなどで構成され、コバルトクロム合金やチタン合金などの金属でできており、傷ついた股関節の代わりにスムーズな動きを実現します。

人工股関節が体内で壊れるということはほとんどないのですが、長い年月が経つにつれ、人工股関節が緩んでしまったり、摩擦によって骨が溶けてしまったりなどして、サイズが合わなくなってしまうことがあります。

サイズが合わなくなると違和感や痛みがでてきますので、合ったサイズのものに交換する必要があります。

再手術が必要になるとはこのような理由からです。その確率

は一般的には10年で約5%程度と言われております。若いうちに手術をするとそれだけ再手術の回数が多くなる可能性があることから、ある程度の年代(多くは60代以降)になってから人工股関節置換術を勧める医師も多くなります。

ただ、痛みを我慢する生活を何年、何十年と送るのは大変過酷で辛いものです。痛みから解放されたい、趣味を楽しみたい、仕事に打ち込みたいなどの理由から、40代の患者さまも当院では手術を受け入れています。再手術のリスクをしっかりと理解した上で、治療法を選択することを勧めいたします。